

ワークショップ形式による意見交換の進め方について

1 目的

- ・ 市民懇談会において出された意見を体系的に分類・整理するため、ワークショップ形式による意見交換を開催し、導き出された意見等を「懇談会提言書」として取りまとめていく。

2 意見の分類・整理の切り口

- ・ 「分野」と「レベル」の2つの軸で意見を分類・整理する。
 - ▶ 分野：「脱温暖化・循環型環境，水と緑の環境」など，基本施策の分野【下図の縦軸】
 - ▶ レベル：「現状及び課題認識」「次期総合計画での方向性」「具体的な取組例」【下図の横軸】

3 意見の分類・整理の進め方

【作業体制】

- ・ 懇談会の各分科会内で分野ごとに2班に分け，ワークショップ形式で作業を行う。

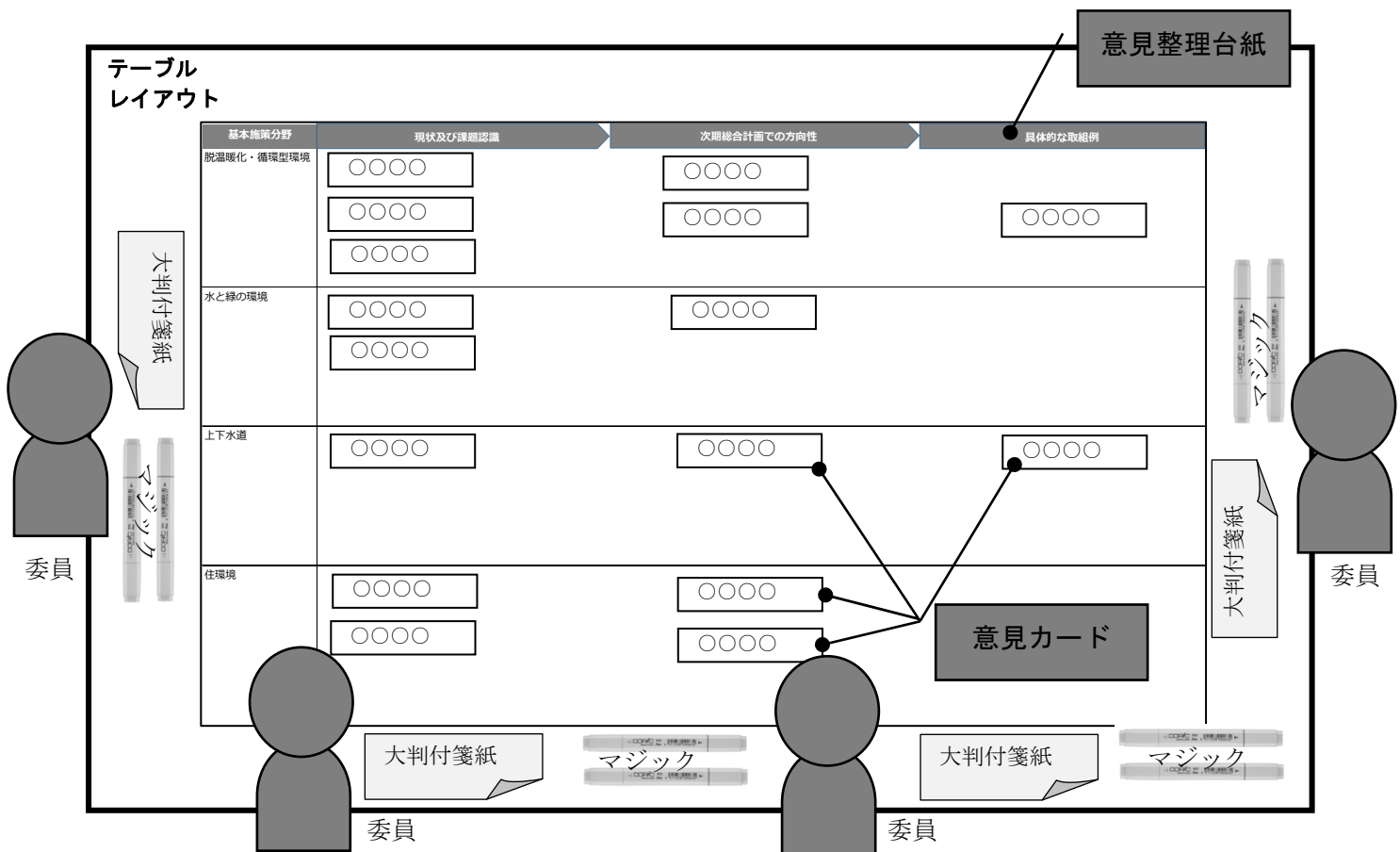
第1分科会：健康・福祉・安全班，子ども・自治・男女共同参画班

第2分科会：生活環境班，都市基盤班

第3分科会：教育・文化班，産業経済班

【作業開始前】

- ・ テーブル上に「意見整理台紙」と前回まで出された意見をカード化した「意見カード」を配置する（事務局で事前準備：下図参照）。
- ・ また，各委員に，作業用の「マジック」，「大判付箋紙」を配布する。
- ・ 各委員が「意見カード」の内容を確認したのち，作業を開始する。



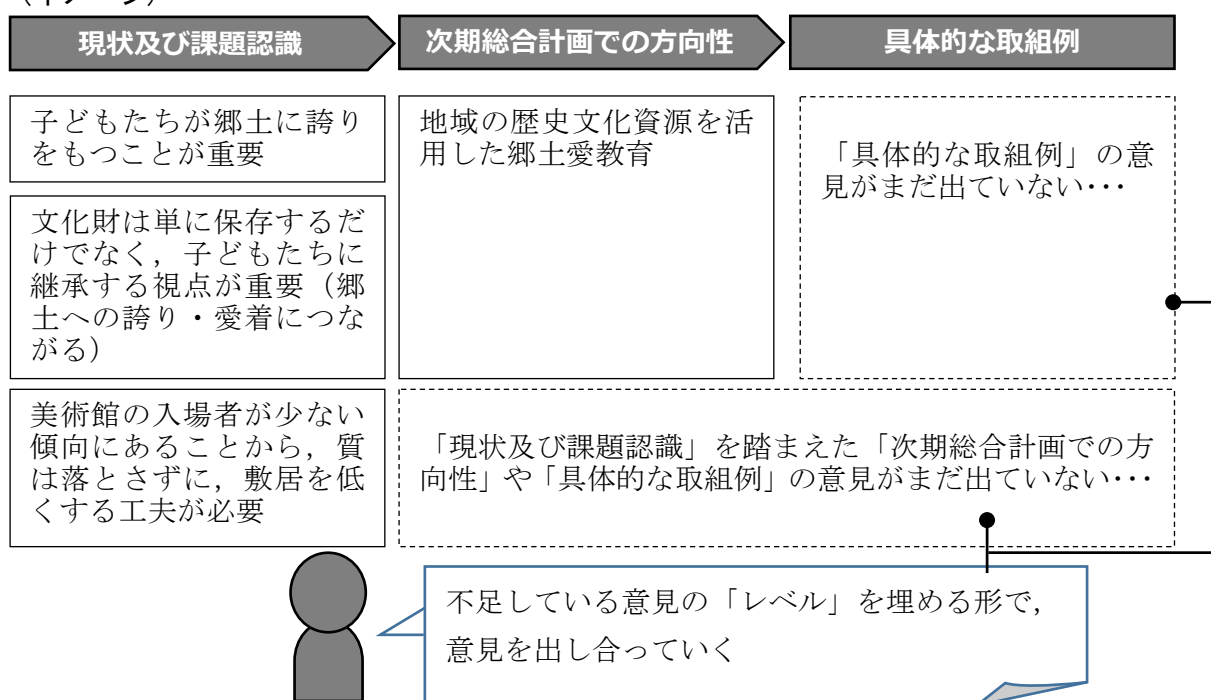
【進行のイメージ】

- ・ 分科会長，副分科会長が各班のファシリテータ役を担う。
- ・ 各委員は，自分の意見を「大判付箋紙」に記入し「意見整理台紙」に貼り，その趣旨等を説明する。
- ・ 進行はファシリテータに委ねるが，以下の視点での意見の分類・整理を想定している。
- ・ 意見交換中に市の取組内容など，確認したい事項が生じた場合は，ファシリテータを通じて事務局に確認を求める。

視点① 「現状及び課題認識」⇒「次期総合計画での方向性」⇒「具体的な取組例」の一貫性の構築

- ・ これまでの意見を整理すると，例えば，「現状及び課題認識」の意見は多く出ているが，「次期総合計画での方向性」に関する意見がまだ出ていなかったりするなど，バラつきも生じている。
- ・ 不足している意見の「レベル」を埋める形で，意見を出し合っていく。

(イメージ)



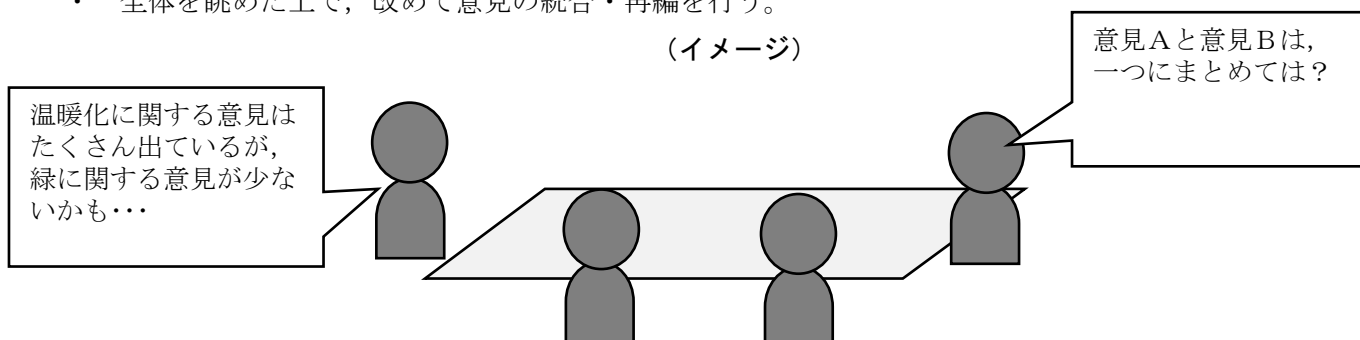
視点② まだ出ていない分野や，不足している分野の意見を出し合う

- ・ これまでの意見整理の結果を眺めると，意見が不足している分野も見られる。
- ・ 意見が不足している分野を対象に，意見を出し合っていく。

視点③ これまで出た意見の統合・再編

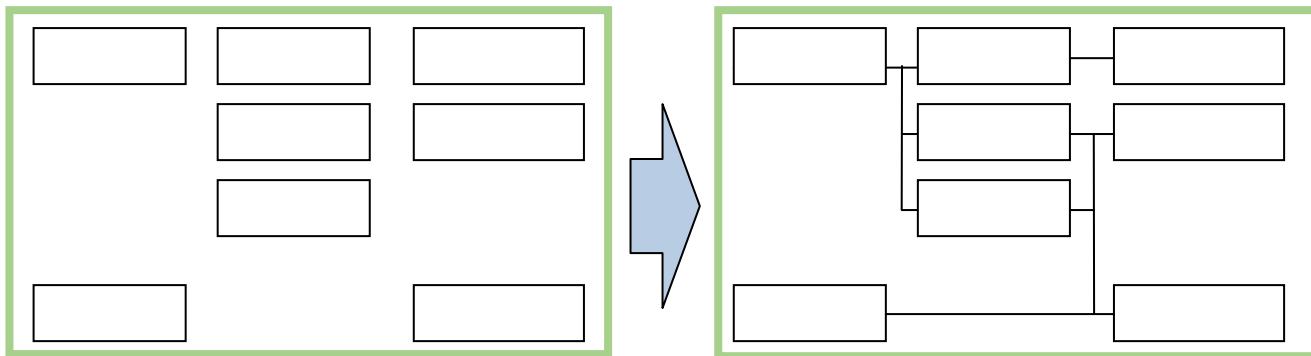
- ・ これまで出た意見の中には，一見，異なる意見でも，背景等が同じようなケースもあり得る。
- ・ 全体を眺めた上で，改めて意見の統合・再編を行う。

(イメージ)



【作業の仕上げ】

① 意見のツリー化



② 重要項目の選択

- ・ ツリー化した意見の内，特に重要と思われる項目に印をつける。

【発表】

- ・ 各班のファシリテータが，分科会委員に対して意見交換の成果を発表する。
- ・ 発表にあたっては，重要印をつけた取組を中心に説明を行う。

4 タイムテーブル ～意見交換の時間は1時間35分程度

開会	00：01	
説明	00：01－00：15	・ ロジックツリー作成の趣旨 など
各テーブルで作業開始	00：15	・ 前回までの意見の整理状況の確認 ・ ファシリテータの進行のもとで，ロジックツリーの作成開始
	01：40	(事務局から「あと20分」の声)
	01：40－01：50	・ 各テーブルでまとめ，仕上げ
A班発表・質疑	01：50－02：05	・ ファシリテータから発表
B班発表・質疑	02：05－02：20	・ ファシリテータから発表
その他・閉会	02：20－02：30	

5 ワークショップ成果物の活用について

- ・ 今回のワークショップの成果を基に、事務局において「総合計画市民懇談会提言書」案を作成する。この提言書案については、次回の第2回の市民懇談会全体会で完成させ、市長へ提出。
- ・ また、今後、第6次総合計画基本構想、基本計画の策定を進める中で、政策分野ごとの「テーマ」の導出等に活用していく。

【総合計画市民懇談会のステップ】

